

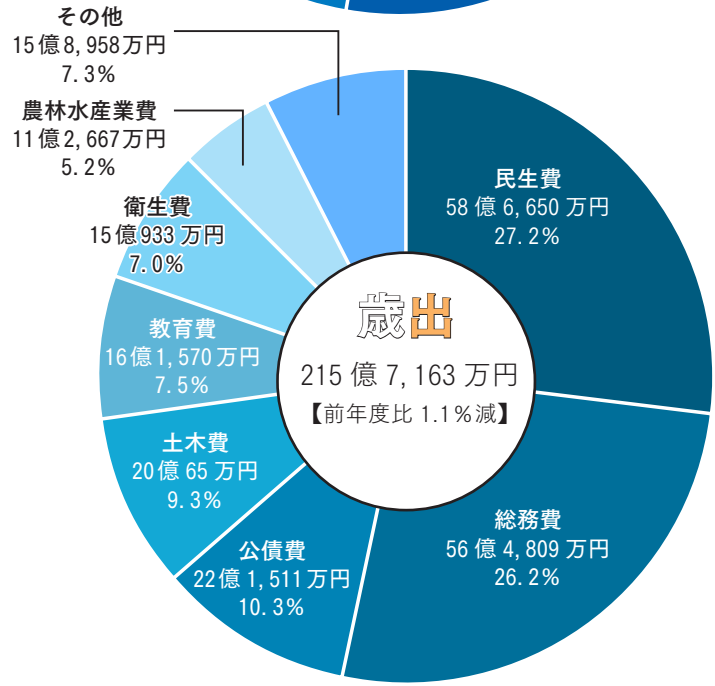
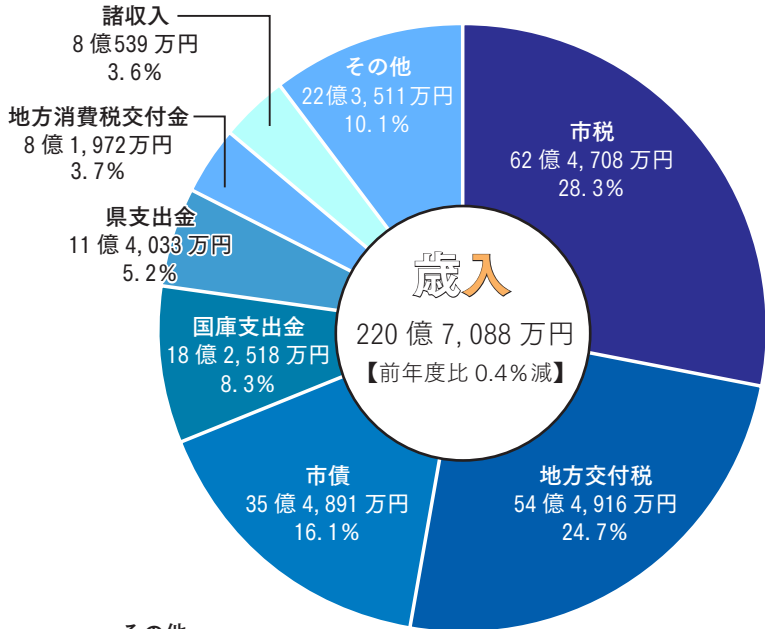
決算概要

2017年度に皆さんに納めていただいた税金や国・県などから交付されたお金がいくらで、どのように使われたかをお知らせします。

一般会計では、歳入歳出差引額は4億9,925万円。2018年度へ繰り越すべき財源の1億97万円（継続費繰越明許および繰越明許）を差し引くと、3億9,828万円の黒字となりました。



問 財政課 ☎(22)2111(内線221)



前年度比較 Pick UP!

一般会計

歳入

市税 … 個人市民税所得割の増、きのこ工場新設等固定資産税の増
 地方交付税 … 市税などの伸びによる基準財政収入額の増加などにより減少
 国庫支出金 … 社会資本整備総合交付金の減少
 繰入金 … 財政調整基金、職員退職手当基金の皆減などにより減少
 市債 … 新庁舎整備事業の増、災害復旧事業債の皆増

歳出

総務費 … 新庁舎整備事業の増加
 民生費 … 中野市新みなみ保育園の完成による整備事業が終了したことなどにより減少

特別会計

特定の事業を行うため一般会計と分けて経理をしている6つの特別会計は、全て黒字となりました。

| 会計名 | 歳入 | 歳出 | 歳入歳出差引額 |
|---------------|------------|------------|---------|
| 国民健康保険事業特別会計 | 58億8,709万円 | 57億9,738万円 | 8,971万円 |
| 後期高齢者医療事業特別会計 | 4億9,348万円 | 4億6,552万円 | 2,796万円 |
| 介護保険事業特別会計 | 43億3,441万円 | 42億3,118万円 | 1億323万円 |
| 倭財産区事業特別会計 | 68万円 | 35万円 | 33万円 |
| 永田財産区事業特別会計 | 59万円 | 34万円 | 25万円 |
| 中野財産区事業特別会計 | 325万円 | 311万円 | 14万円 |

独自の収入でその経費を賄う独立採算を原則とする会計で、本市では下水道事業会計と水道事業会計が該当します。

| 下水道事業会計 | 収入 | 支出 | 収支 |
|---------|------------|------------|------------|
| 収益的収支 | 25億9,316万円 | 20億8,794万円 | 5億522万円 |
| 資本的収支 | 9億3,610万円 | 17億5,491万円 | △8億1,881万円 |
| 水道事業会計 | 収入 | 支出 | 収支 |
| 収益的収支 | 11億2,489万円 | 8億6,335万円 | 2億6,154万円 |
| 資本的収支 | 1億6,692万円 | 4億8,867万円 | △3億2,175万円 |

Check! 財政状況

貯金は？

市の貯金に当たるものが、「基金」です。
2017年度末の基金残高は111億2,189万円で、前年度末に比べ4億6,411万円の減少となりました。
財政調整基金、減債基金及び公共施設等整備基金を合算した「主要3基金」は、新庁舎整備事業費への充当などにより、前年度末に比べ5億5,597万円の減少となりました。

| 基金残高（2017年度末現在） | |
|-----------------|-------------|
| 財政調整基金 | 27億1,558万円 |
| 減債基金 | 9億9,692万円 |
| 公共施設等整備基金 | 34億4,027万円 |
| 合併振興基金 | 13億3,700万円 |
| その他基金 | 26億3,212万円 |
| 合計 | 111億2,189万円 |
| 市民1人当たり* | 約25万円 |

※市民1人当たりの残高は、2018年3月末の住民基本台帳人口（44,740人）を基に計算しています。

借金は？

市の借金に当たるものが、「市債」です。
本市の全会計の市債残高は424億4,584万円で、前年度末に比べ5億2,636万円の減少となりました。

| 市債残高（2017年度末現在） | |
|-----------------|-------------|
| 一般会計 | 208億2,954万円 |
| 下水道事業会計 | 181億6,245万円 |
| 水道事業会計 | 34億5,385万円 |
| 合計 | 424億4,584万円 |
| 市民1人当たり* | 約95万円 |

| 指標 | 中野市 | 早期健全化基準 | 財政再生基準 |
|-----------|------|---------|--------|
| 実質赤字比率* | — | 13.01% | 20.0% |
| 連結実質赤字比率* | — | 18.01% | 30.0% |
| 実質公債費比率* | 5.7% | 25.0% | 35.0% |
| 将来負担比率* | — | 350.0% | |

※財政の健全化を判断する指標の内容

- 実質赤字比率：一般会計などの標準財政規模（標準的な状態で毎年度経常的に市の収入となる一般財源の規模で、2017年度は124億4,888万1,000円）に対する実質赤字額の比率。財政運営の悪化の度合いを示します。
- 連結実質赤字比率：公営企業会計を含む全会計を対象とした実質赤字額および資金の不足額の標準財政規模に対する比率。財政運営の悪化の度合いを示します。
- 実質公債費比率：一般会計が負担する市債の元利償還金など（借入金の返済額など）の標準財政規模を基本とした額に対する比率。資金繰りの程度を示します。
- 将来負担比率：一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額に対する比率。現時点での負債の残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示します。